

本スライドは、当日のセミナー資料の一部を抜粋したものです。

IoT時代のソフトウェアシステムのための 最新モデリング・検証技術

国立情報学研究所

准教授・鄭顕志

tei@nii.ac.jp

<http://researchmap.jp/teikenji/>

自己紹介: 鄭 顕志(てい けんじ)



- 国立情報学研究所 准教授
- 研究分野: ソフトウェア工学専攻
 - アーキテクチャ, MDE
 - 自己適応ソフトウェアシステム
 - IoT/CPS/センサネットワークなどの次世代組込みソフトウェア開発に興味
- 教育活動
 - TopSE: 社会人エンジニア向けのソフトウェア工学の教育カリキュラム
 - ETロボコン本部審査委員

本日の話題

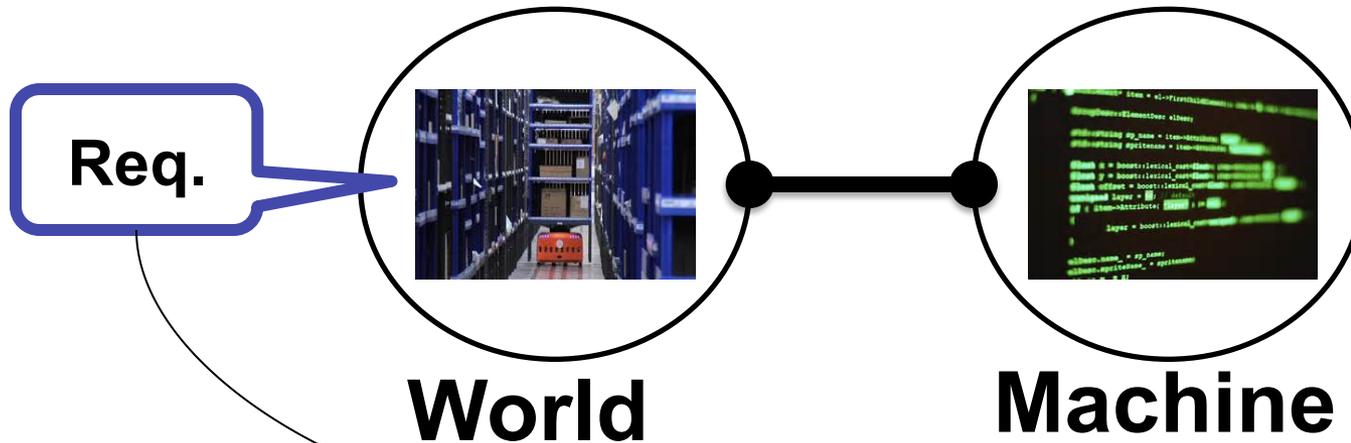
IoT時代のソフトウェア開発が
向き合うべき本質的な課題は何か？

そのためのモデリング、検証技術の発展を紹介

そもそも、ソフトウェアは何をするか？

～要求工学的視点～

Zave/Jacksonのモデル

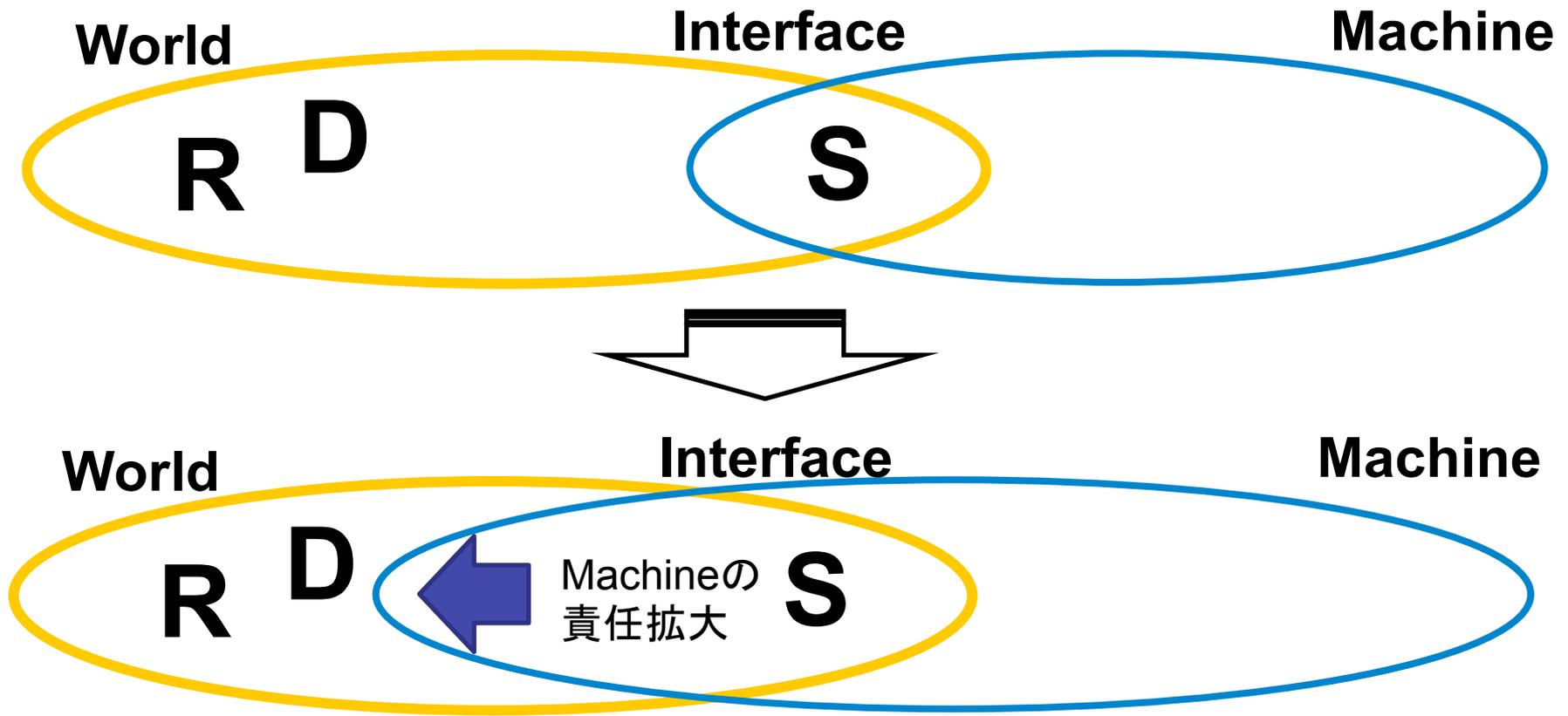


S, D | = R

マシン(開発の成果物)の仕様 **S** は、
想定環境(ドメインの性質) **D** の下で、要求 **R** を満たす

Dのモデル化がキモ

IoT時代のソフトウェアは 向き合うべき環境の不確かさが激増



石川, IoT・スマート時代を支える エージェント指向の システムづくり, JAWS2016

~ソフトウェア工学分野の最新トレンド~

Models@run.time

モデルを実行時にも活用するアプローチ

- 通常開発時にのみ用いられるモデルをシステムが実行時にも保持し、モデルに基づきシステムを決定
- モデルの自動検証・自動合成技術を活用して実行時の環境変化に自動で対応(自己適応)

